



農大二中進路通信

令和6年6月4日(火)

第5号 農二中進路指導部

座して学ぶより行動を

5月には進路ガイダンス、NI 探究レクチャーのような机上で学ぶ座学の他に、実際に学んだことを体験するワークショップ、フィールドワークなどの教育活動が多々ありました。やはり、受け売りや借り物の『知識』ではなく、自分の目や耳を使い、肌で感じ取った『体験』をすることは本当に価値があることだと感じます。最近では技術が進歩し、スマホやパソコンがあれば世界中の情報が手に入ります。VR のゴーグルをすれば、あたかもその土地に行った感覚になったり、体験をしているような感覚になります。そういった意味ではかなり便利な世の中で、デバイス一つですべてのことがわかっているような錯覚にも陥ります。しかしながら、田植え体験で素足で泥の中に入った感触、稲を田んぼに植える感触、そこで感じる匂い、音など、そこでしか感じられない何かがあります。発酵についてレクチャーを受けましたが、実際に味噌を作る中で麴の匂いや感触を感じ取ったことでしょうか。もちろん知識は大切です。しかし、知識を得たことで満足せず、体験を重視する人であってほしいと思います。体験的に学ぶ人として思い出すのはかの有名な吉田松陰です。吉田松陰といえば、松下村塾で多くの若い人に教えていたことで有名です。吉田松陰の授業は、先生が一方的に話すようなものではなく、教え子と議論したり、水泳や山登りに行くこともあるなど、先生と生徒と一緒に学び合うスタイルだったと言われています。彼は考察の人ではなく、行動の人、つまり、座って何かを学ぶより、動いて学ぶことを重視したそうです。世界の動向や社会の本質、物事の本質を見極めるためにはとにかく行動が大切です。さあ、みなさんはこれから何をしますか？



中2生対象 NI 探究レクチャー

5月15日(水)に本校武揚ホールにおいて、中等部2年生を対象に「オホーツク海から考える自然を守る理由」と題し、オホーツク海の生態系について、東京農業大学副学長の千葉晋教授より講演をしていただきました。内容はオホーツク海とはどのような海なのか、知床はどうして世界遺産になったのか、そして、知床を世界遺産として保つにはどのような取り組みが必要か、世界に誇るオホーツクのサケ、ホタテ漁業、そして、気候変動にどう対応するかなど一見すると中学生には難しいトピックではありましたが、中学生にもわかるように内容をかみ砕いて話をしていただき、生徒からは「たくさんのが学べた!」「オホーツク海に行ってみたい!」などとオホーツク海の自然環境、そして、生物の多様性について多くのことを学ぶとともに、オホーツク海への興味・関心が高まりました。今後とも農大と連携しながらこのような知的好奇心を刺激するような試みをしていきたいと思っております。今年の夏



は実際にオホーツク研修がありますが、興味のある生徒はぜひ参加をし、五感を使って多くのことを学んでほしいと思います。以下は生徒の感想の一部です。

- オホーツク(知床)が想像以上に自然豊かで、自然環境に恵まれているということに驚きました。また、生態系のバランスや、構造は様々でもそれぞれが繋がっているということが想像とは違っていました。
- 小さな頃から大人になるまで育てるのではなく、ある程度成長するまで育て、その後は自分の力で成長させるという点が生態系への影響が少なく、多くのホタテが取れるという事がわかりました。
- 大きな貝に育つまで約4年間経つことに驚きました。もらったホタテをよく観察し、ホタテの体の仕組みを理解することができました。オホーツクに1度は行ってみたいと思いました。

味噌作り実習

5月16日(木)~17(金)に1学年で『味噌作り実習』が行われました。この実習は、事前に農大の野口先生による『醗酵』についての講演を聞き、身近な食品である『味噌』を作るという総合学習におけるプログラムの一環として実施されました。そもそも日本人と発酵食品の歴史は古く、縄文時代には作られていたという記録が残っているそうです。また、日本における発酵食品の種類は世界的に見ても多く存在し、味噌もその一つに該当します。

作り方は米麴と塩を混ぜ、その後蒸した大豆をつぶして味噌玉を作りながら袋に詰めていくというシンプルな作業でしたが、普段何気なく口にしている味噌を実際に作ることで、発酵食品への興味・関心や作り手への感謝の気持ちが生まれたのではないかと思います。特に米麴を試食できたことは、この実習があったからできたのではないのでしょうか。味噌の食べ頃は約半年後の10月中旬です。保存状態・場所に注意し、美味しい味噌が出来上がるのを楽しみに待ちましょう！そして、11月のきのこ研修で収穫したきのこ味噌を使って手作り料理に挑戦してみるのもいいですね！自分でレシピを考えるのも楽しいですよ。1つの実習や体験から無限に考え方が広がりますね。この実習から得たことを、今後の学校生活・日常生活に繋げてください。



(今回、高崎市にある『糰屋』さんにご協力をいただきました。ありがとうございました。)

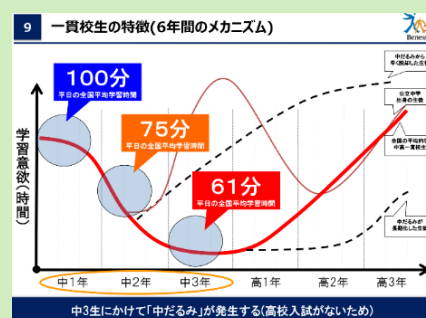
- いつも何気なく食べていた味噌がこんなにも時間をかけて作るものだったことに驚きました。
- 白い米のようなものが最初チーズみたいな味がしたけれど、出来上がりの味噌は全くその味がしないので、なぜだろうと思いました。また、思っていたより食塩を入れていたので、塩分を摂りすぎないように気をつけようと思いました。
- 麴は少しだけ入れれば発酵していくものだと思っていたけれど、実際には多量の麴を使っていたことが印象的でした。



中一生対象 親子進路ガイダンス

5月24日(金)に(株)ベネッセコーポレーションより小林和哉先生をお迎えして中等部1年生を対象にした親子進路ガイダンスを実施しました。講演では6年間の継続した段階的な学習の進め方や1学年次における学習の仕方についてお話をいただきました。ガイダンスの中では、中高一貫校においては高校履修範囲を早期に終えることができることが最大のメリットであり、早い段階で学習者としてのステップアップが見込まれることや授業が楽しいと思えることが学習の意欲と大きく関連していることを教えていただきました。また、成績が上向く生徒と下降する生徒の大きな違いは各教科の宿題の取り組みがしっかりできる生徒、そして、定期テストの復習ができる生徒であることがこれまでのデータから言えるそうです。1, 2年生に共通することですが、宿題を出さない生徒でできる生徒はいません。まずはやるべきことをしっかりやるところから始めてほしいと思います。

特に一年生のうちは勉強への意欲が高いのでこのタイミングで勉強をする習慣をしっかり作ることが大切であるということ強く言っておられました。土台を作るのは今ですから、日々の誘惑に負けず、やるべきことを毎日しっかりやっていきましょう。ちなみに右のグラフのように2年生になり、なかだるみで勉強時間が減るようです。2年生はしっかりと学習時間を確保してほしいと思います。最近一年生に比べて学習時間が減っている人が多々いるのが気になります。



少年の主張

少年の主張は、昭和54年に「国際児童年」の記念事業として開催されるようになりました。群馬県では、毎月第1土曜日を「少年の日」と定め、県民が一体となって少年の健全育成を考え、青少年自身も自分の行為に対する責任と自覚を深める日としています。本校では、5月27日月曜日に、武揚ホールにて少年の主張校内大会が行われました。2年生の代表者6名が発表し、2年C組の高山いち子さんが農大二高中等部の代表として、6月29日土曜日に榛名文化会館エコールにて行われます高崎市大会に出場します。また、高崎市大会は西部地区大会の予選を兼ね、群馬県大会、関東大会、全国大会へと上位大会へと繋がっていきます。

少年の主張では、書く力、話す力が問われます。どんなにいい文章が書けても、音声を通して伝える力がないと聞く人の心に届きません。同じ文章を朗読しても、読み方によって相手の受け止め方、受け止められる情報量に差が出ます。書く力+話す力、ですが、書く力<話す力でもあります。国語科では、入学直後の詩の朗読において「声を届ける」ことを学習し、音声を通して表現する学習を行っています。もともと表現が上手な生徒もいますし、その授業で表現力を身に付けていく生徒もいます。発表するにはちょっとした勇気も要りますから、自分の心と葛藤し、なかなか変わらない生徒もいます。国語での学習以外にもNI探求などの発表など、多くの発表する機会がありますので、発表に慣れながらより良い表現を目指してその場にふさわしい話し方を身に付けて欲しいと考えています。

さて、今回の6名の発表者ですが、もともと表現力のある生徒の発表では「やはりうまいなあ」と納得の発表を披露してくれましたし、何回も書き換え、発表の練習を重ねた生徒は「凄い！上達ぶりが凄い！」とその成長ぶりに感動させられました。校内大会が行われるまでに、クラス内の班の発表、クラスでの発表と予選を行ってきましたが、発表するたびに上達する生徒の姿にはとても感動します。生徒全員が文章を書き、全員が1回は発表します。生徒の多くは文章を書くことがあまり好きではないようですが、1年に1回は自分を見つめ、社会を見つめ、自分の考えを人前で発表するというだけでも成長に繋がると思います。生徒の皆さんには、少年の主張を、「自分の考えを堂々と発表するチャンス」と捉え、文章力、発表力に磨きをかけて欲しいと思いますし、それらの力を生徒たちが獲得できるよう指導していきたいと思っています。



NI 探究フィールドワーク（田植え体験）

5月30日(木)に二年生対象にNI 探究のフィールドワークとして田植え体験を実施しました。先日、農大の上地先生より、稲についての講義をしていただきました。その上で実際に田植えを体験、そして、川場村のコシヒカリ雪ほたかの製造会社の工場見学を行いました。田植えが初めてだという生徒も多くおり、最初はなかなか苗をうまく田んぼに植えることができなったり、遅くなってしまうことがありましたが、時間とともに上手になり、早く、そして、正確に田植えを行うことができました。田植えを終えた生徒からは、「こんなにも田植えが大変だとは思わなかった」「昔の人は機械もなく、自分の手で植えてたと思うと本当に大変だったんだと思った」「普段食べているお米を作っている生産者の方々に感謝をしながら食べたい」など、普段は気がつかない米作りについて考え、理解を深めることができました。また、ライスセンターでは収穫したコメが出荷までにどのようなプロセスをたどるのか、説明を受け、工場見学をしながら理解を深めました。午後には群馬が誇る道の駅全国NO1の川場田園プラザにて、自由時間を過ごしました。山賊丼やラーメンを食べる生徒、またアイスクリームを食べながら友達と談笑する生徒、さらにはアスレチックや滑り台で遊ぶ生徒など過ごし方は様々でしたが、各々楽しんでいたように思えます。多くの生徒が今度は個人的に田園プラザに来たいと言っていました。これらの体験を通して、身の回りの小さなことにも目を向けながら、当たり前だと思っていることもその裏には多大な労力がかけられており、生産者さんたちの血のにじむような努力と米作りの情熱によって私たちの食事が成り立っているのだと実感した様子でした。



行事予定

6月15日(土)	自宅学習日
6月25日(火)~28日(金)	一学期期末テスト
6月28日(金)	中一、中二親子進路ガイダンス(4月の学力推移)
7月 5日(金)~6日(土)	二高祭
7月10日(水)	NI 探究中間発表会(手法やデータについて)
7月13日(土)	中等部クラス懇談会
7月19日(金)	終業式
7月22日(月)~25日(木)	夏期講座 I
8月22日(木)	駿台中学生テスト
8月26日(月)~28日(水)	夏期講座 II